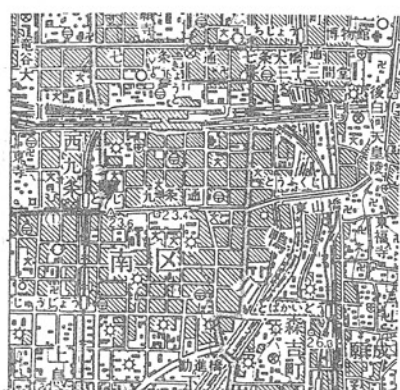


京都・平安京左京九条二坊十三町

- 1 所在地 京都市南区西九条春日町一九
- 2 調査期間 一九八四年(昭五九)五月～九月
- 3 発掘機関 財京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 丸川義広・木下保明・辻 裕司
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 平安時代前期、鎌倉時代、江戸時代前期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都東南部)

十三町の中央部から西部にかけて、町内の四分の一ほどの面積を調査した。平安時代前期では、油小路東側溝、町内の中央を南北に流れる流路、それに東部に池のような遺構を検出した。

(1)・(2)の木簡は、斎串・人形・漆器・下駄などと共に、幅一六m、深さ四五cmの流路から出土した。鎌倉時代では、建物跡と井戸一三基が主要な遺構である。

油小路東側溝のすぐ東に

幅二〇m、深さ一・五mの濠があった。この濠は天正一九年(一五九一)豊臣秀吉によって築造された、当時の京全体を囲む御土居の外濠である。(3)以下の墨書札類のほか、工具・容器・装身具・文具・家什具・生産具・建築材など多彩な木質遺物が出土した。

8 木簡の釈文・内容

江戸時代のものではなく、字が多く難解で、川嶋将生氏(京都市歴史資料館館員)に判読を依頼した。以下は、氏の釈文を梅川が補ったものである。

(1) 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕

・「知明日寅〔時カ〕参〔時カ〕」
(95)×(15)×2 081 ヒノキ 882

(2) 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕

・「尔尔尔尔」
(80)×(16)×3 081 ヒノキ 888

(3) 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕

・「〔穿孔〕へ久井まつや利左衛門」
品 五り
106×25×4 011 スギ 055

(4) 〔 〕 〔 〕 〔 〕 〔 〕

品 内内
108×(15)×3 011 スギ 128

(29) 「寛文戊□」

(154) × 19 × 9 019 子 337

(30) 寛文九年」(線刻)

(115) × 15 × 7 061 タケ 885

(31) [延カ] □宝三年 池田屋

(101) × (24) × 5 081 ヒノキ 286

②7は巡礼札、②8は掟札である。②8は曲物蓋、②9は箱、③1は板に墨書、③0は茶杓の柄に線刻したもので、このほか年紀を記したものが幾つかある。また、三〜四cm四方の厚めの材に人足名を記した人足札、糸巻に所有を示す人名を記したもの、曲物側板に「上候 卜地 とりめ 二貫文の 代拾匁」と墨書のあるもの、木製容器の蓋に「はま なつとう れん□□」と記したもの等があり、当時の雇用労働・経済活動を知る資料として興味深い。

(梅川光隆)

木簡研究 第三号

巻頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭 脩

一九八〇年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京左京(外京)五条五坊七坪 藤原宮跡 稗田遺跡——下ッ道—— 長岡京跡 大蔵司遺跡 西沖遺跡 御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鵜・城山遺跡 草戸千軒町遺跡 野田地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東辺部

一九七七年以前出土の木簡 (三)

平城宮跡(第二一次・第二二次北) 薬師寺 下岡田遺跡

中国における簡牘研究の位相

池田 温

庸米付札について

狩野 久

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について

原 秀三郎

草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心に——

志田原重人

彙報

頒価 三五〇〇円 千四〇〇円